

田浦小学校 跡地活用に関する地域説明会 議事録

■日 時：令和8年4月29日（水）10：00～11：20

■場 所：旧田浦小学校 体育館

■出席者：地域住民など 49名

F M推進課（事務局）	課 長	山中 理
	主 査	土田 正和
	主 任	田村 健一
	主 任	岩崎 勝美
	主 任	狩野 澄人

■内 容：＜議題＞

- （1）跡地活用検討協議会の検討結果報告書に関する説明
- （2）跡地活用のスケジュール（現時点のイメージ）に関する説明
- （3）跡地活用等に関する意見、質疑応答

概 要

1 開会

2 事務局挨拶

（F M推進課長）

日頃より、横須賀市の行政にご理解、ご協力をいただきましてありがとうございます。また、本日はお忙しい中、田浦小学校跡地の利活用に関する説明会にお越しいただきまして ありがとうございます。

本日の説明会ですが、大きく2つの話をさせていただこうと考えています。

1つは、これまで1年間にわたり、地域で活動いただいている団体の皆様にご協力いただきながら開催してきました「跡地活用検討協議会」の検討結果報告書について、説明させていただきたいと思っています。こちらは今年の5月にこの体育館で地域の皆様を対象にした説明会を行わせていただき、そこでいただいたご意見なども踏まえて、跡地がどういった場になってほしいのかということをお考えいただいた結果としてまとめたいただいた報告書です。横須賀市として報告書を受け取りましたので、今後、その内容をできるだけ実現できるように、検討を進めていきたいと考えています。

もう1つお話をしたいことが、今後の跡地活用の検討の進め方について、横須賀市としてどう進めていくのかということですが、今後この報告書の内容を実現できるようにするためには、例えば、事業費がいくらぐらいになるのか、あるいは土地や建物に法令上の制限をどうクリアしていくか、実際の運営にあたってはどのような方法があるのかなど、実現性を高めていくために考えなければならないことがいくつかあります。そういったことを検討する手順として、横須賀市としてどう考えているかということをお話しさせていただきたいと思っています。

限られた時間ではありますが、今後の田浦小学校の跡地活用につながる話を、我々としてはできるだけ皆様に分かりやすくご説明したいと思っています。皆様のご意見をお聞きしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

3 自己紹介

参加職員が順次、自己紹介

4 議 題

(1) 跡地活用検討協議会の検討結果報告書に関する説明

(事務局)

資料に沿って説明

(2) 跡地活用のスケジュール（現時点のイメージ）に関する説明

(事務局)

資料に沿って説明

(3) 跡地活用等にかかる意見、質疑応答

(質疑・意見等1)

- ・具体的にこれからお試し利用や地域との意見交換が予定されているとのことだが、これは市のどの組織が窓口を行うのか。
- ・サウンディングとはどのようなものか。

⇒ (FM推進課)

- ・市の窓口としては、継続して財務部FM推進課が対応していく。防災や選挙などFM推進課で直接お答えできない内容については、関係部局と協議をした上で、対応する。
- ・サウンディングは、民間事業者との意見交換のこと。民間事業者と接点が多い企画調整課と連携して情報を収集していきたいと考えている。

(質疑・意見等2)

- ・市の最終案についての地域説明会はないのか。
- ・実際の事業者の運営内容などの説明はしてもらえるのか。
- ・田浦は公園があまり多くない。現在、子どもたちは田浦小学校のグラウンドに入れなくなっていると思うが、本格利用開始の令和11年度まで待つと3年後になってしまう。子どもたちにグラウンドを利用させてあげたいと思うのだが、その点について意見を伺いたい。

⇒ (FM推進課)

- ・スケジュールのd「市案完成」が概ね令和9年3月頃を見込んでおり、これを市の最終案として考えている。
- ・運営内容については、事業者が決まり次第、随時、地域の皆様に報告する。

- ・子どもたちにグラウンドを利用させてあげたいという意見は、昨年の地域説明会や協議会でも伺っている。極力、今回のお試し利用のタイミングと合わせた形で、日中に子どもたちがグラウンドに出入りできるように教育委員会と協議をしている。もう少しお時間をいただきたい。

(質疑・意見等3)

- ・小学校等の公共建築物は、一般の建物に比べて耐震性能などが頑丈に作られていると思うが、資料の6ページを見ると校舎①と②は解体するということになっている。例えば、耐震補強をしてコストをかける案と解体する案でどのようなメリット・デメリットがあったのか、どのように比較・分析したのか教えてほしい。

⇒ (FM推進課)

- ・耐震補強工事は平成18年度にすべての校舎で実施済みのため、耐震性能については一定の基準を満たしていると考えている。
- ・一方で、校舎①と②は築年数がかなり経過しており、特に校舎①は築72年を超え、横須賀で一番古い校舎となっている。コンクリートの寿命として、一般的に手を入れても80年程度と考えられている。コンクリートの劣化という観点から継続的に使っていくのは難しいという判断により、解体という方針を記載している。

(質疑・意見等4)

- ・一般的なコンクリートの寿命ということだが、最新の技術で言うと、コンクリートに薬液を注入して補強したり、鉄筋量が足りないものについてはカーボンフィルムを貼って補強したりといった技術もあると聞いている。
- ・「横須賀で一番古い校舎」という説明があったが、それであれば文化の継承ということで「横須賀の最も古い鉄筋コンクリート造の小学校」として残すのはどうかと一市民として思った。その点について、市民とディスカッションなどを行ってきたのか。

⇒ (FM推進課)

- ・一番古い校舎を文化財的な扱いとして残していくかという点については、現時点では市として検討は行っていない。
- ・コンクリートの耐用年数について、教育委員会では学校校舎の耐用年数の目安を定めている。これは田浦小学校に限らず、市の学校施設全体において、概ね80年を目安に維持管理を行い、その期間が経過した後は建て替え、あるいは解体していくという考え方が基本となっている。最新の技術で保存できる選択肢はあるかもしれないが、市としてはこれまでの維持管理方針に基づき、80年を目安に解体していくという判断をしている。

(質疑・意見等5)

- ・体育館も一部レッドゾーン（土砂災害特別警戒区域）にかかっているが、校舎①、②を解体するのであれば、その跡地に避難所として利用できる新しい体育館を建設する検討はしているのか。していないのであれば、新たな意見として要望したい。

⇒（FM推進課）

- ・協議会の皆様からも同様の提案をいただいているが、財政状況や今後の人口減少を踏まえると、校舎跡地に大規模な建物を新たに建てるとの判断は、横須賀市としては非常に難しい。現状では、体育館規模の建物を新築するにはかなり高いハードルがある。
- ・避難所について補足すると、旧田浦小学校の体育館はレッドゾーン（土砂災害特別警戒区域）にかかっているため、避難所に指定しておらず、校舎③と④を避難所として指定している。避難体制についても、校舎③と④を使う前提で地域の皆様に案内している。

（質疑・意見等6）

- ・高齢者の多いこの地域で、校舎の階段を上って避難するのは現実的か。やはり避難所には平屋の体育館が必要だと思う。3階や4階の限られたスペースで何十人も生活することを想像してほしい。もう少し緊張感を持って考えてほしい。

⇒（FM推進課）

いただいた意見は市の危機管理課に共有する。

（質疑・意見等7）

- ・教育委員会の管轄かもしれないが、校舎についていた校章が取り外された後、その跡が非常に汚い状態のまま残っている。田浦小学校の出身者としては非常にやるせない思いがある。今後、建物に手を入れる際は、卒業生の思いに配慮してほしい。

⇒（FM推進課）

配慮するように努めていく。

（質疑・意見等8）

- ・私は田浦出身で、現在は日本コーンホール協会というところで運営の手伝いをしている。田浦地域を活性化したいとの思いから、体育館やグラウンドを使って「コーンホール」というスポーツを広められないかと考えている。コーンホールはアメリカ発祥のスポーツで、年齢や障害の有無を問わず、誰でもすぐに参加できる。トライアル期間に、多世代がコミュニケーションを取れる場として活用したいと考えており、企画書を持参した。大会などを開催すれば、地域外からも人が集まり、食事やグッズ販売など地域のコミュニティにも貢献できると考えている。今後、体験会などを通じて楽しさを知ってもらい、活性化のきっかけになればと思っている。

⇒（FM推進課）

体育館の空き時間等で調整させていただきたい。

（質疑・意見等9）

- ・田浦町のボランティアセンターで働いている。資料の5ページの福祉の項目にボランティアセンターが挙がっているが、移転が決まったのか。ボランティアセンターには、現在7名の

相談員がいるが、平均年齢が 77 歳と高齢で、旧田浦小学校まで通うのは難しいという声も出ている。現在のボランティアセンターがある 16 号線沿いの方が人通りも多いため、場所については慎重に検討をお願いしたい。

⇒（FM推進課）

いただいた意見を今後の調整に生かしていく。

（質疑・意見等 10）

- ・集まりに何回か参加しているが、活用案の内容が毎回似通っているように感じる。もっと大きな視点で考えてはどうか。例えば、使わない校舎を博物館として活用し、お宝級の展示を行うなど、全国や海外からも人が集まるような施設にすれば田浦はもっと有名になる。人が集まらなければ商業も成り立たない。
- ・駐車場についても当初から言っているが、資料に出てきてない。入口の駐車場を市が確保しなければ、イベントをやってもアクセスが困難である。予算がないと言われるかもしれないが、そこで稼ぐという考え方も必要。駐車場問題は真っ先に解決すべき事項だと思う。

⇒（FM推進課）

駐車場の問題については、協議会でも課題として挙がっている。跡地利用を進める上で駐車場の確保は避けて通れないことだと認識しているので、引き続き検討事項とさせていただきます。

（質疑・意見等 11）

- ・資料 5 ページの福祉の項目に「配食サービス」とあるが、私たちは「田浦助け合いの会」として、高齢者給食というサービスを毎月行っている。現在はコロナの影響もあり、配食のみとなっているが、以前のように広い場所があれば、皆さんで集まって食事ができる場を作りたいと考えている。ここには調理施設もあるので、給食室や教室を活用した事業を是非検討してほしい。

（質疑・意見等 12）

- ・私は劇団四季出身で、現在は浦郷で子どもたちとミュージカルを作ったり、横須賀総合高校で高校生にミュージカルを教えたりしている。田浦や追浜地域の子どもたちと一緒にオリジナルのミュージカルを作ったり、ワークショップの場として、田浦小学校の音楽室や体育館を活用したいと考えている。現在、横須賀にはプロが活動できるような稽古場が不足しており、市外の施設を使っている現状がある。廃校を利用した成功事例は他都市にもあるので、是非皆さんの仲間に加えていただきたい。

（質疑・意見等 13）

- ・駐車場に関連してだが、現状、車で来ると一方通行などで入りにくい問題がある。一部を区画整理して駐車スペースにするなどすれば、利便性が高まるのではないかと。

（質疑・意見等 14）

- ・田浦小学校周辺は道が狭いため、外から多くの車が入ってくると地域住民の生活に支障が出るという懸念もある。そこのバランスも考慮して検討をお願いしたい。

(質疑・意見等 15)

- ・横須賀基督教社会館のソーシャルワーカーをしている。資料5ページの福祉の項目にある「重層的支援活動」は、市の地域福祉課が進めている「重層的支援体制整備事業」の実施計画と連動したものなのか。具体的なイメージがあれば教えてほしい。

⇒ (FM推進課)

現状では、地域福祉課が進めている事業と、この報告書にある「重層的支援活動」による活用はリンクしているものではないが、基本的には整合させていきたいと考えている。今後の検討の中で、地域福祉課とも調整を図っていく。

(質疑・意見等 16)

- ・今後の施設の管理について、現在は教育委員会の所管だと思うが、今後はどのタイミングで所管が変わるのか。

⇒ (FM推進課)

現時点では教育委員会が所管しているが、遅くとも具体的な活用案が決まり、施設改修(資料のjのあたり)を行う前段で、事業内容に沿った部局へ所管を移していくことになると考えている。

(質疑・意見等 17)

- ・協議会の議事録を見て、委員の皆様が熱心に議論されていることがよくわかった。その中で「お試し利用(トライアル)」が非常に重視されていると感じる。5月から募集とのことだが、具体的にどのような形で進めていくのか、もっと詳細な説明が必要ではないか。それがわからないままでは、市案の完成までに十分な活用がなされないのではないかと危惧している。

⇒ (FM推進課)

- ・お試し利用の経緯としては、本格活用まで施設を閉鎖したままにするのは地域にとって良くないというご意見をいただき、検討材料を集める意味も含めて実施することとした。
- ・概要としては、利用期間は6月下旬から12月末まで、場所は主に北側の校舎と体育館(現在、スポーツ団体が利用している時間帯以外)を想定している。対象は田浦・長浦小学校区にお住まいの方や活動されている団体で、地域住民を対象としたイベントや活性化につながる取り組みを募集する。
- ・5月中に事前見学会(オープンデー)を実施し、実際の施設を見てもらった上で申し込んでもらう流れを予定している。利用は基本的に無料だが、結果を報告書として提出してもらい、それを本格活用の検討材料とする。詳細は5月の回覧板にて案内する。

(質疑・意見等 18)

- ・西側の校舎については、耐用年数の関係で利用が最小限になるとのことだが、運用の途中で解体工事を行うのは煩雑になる。本格運用の前に解体するという方向性も検討してほしい。

5 閉会の挨拶

(FM推進課長)

本日は長時間にわたり、説明会にご参加いただきありがとうございました。皆様からいただいた様々なご意見を踏まえ、今後、具体化を進めてまいります。今後も節目ごとに検討状況をお知らせし、地域の皆様と方向性を共有しながら進めていきたいと考えています。経過については市ホームページにも掲載していますので、是非ご注目ください。本日は誠にありがとうございました。

以上